

——■助けてあげようこんなシュチュエーション■——

●近くで台車が荷崩れを起こした

特に搬入搬出時に頻発するトラブルだ。通りかかったら遠慮なくその荷物の積み直しを手伝ってあげよう。また、台車で段差を超えようとしているような場合は、その鼻先をほんの少し持ち上げてあげると楽に上がることができる。誰にでも簡単にできる手助けなので、ぜひチャレンジしてほしい。

●落とし物を拾った、迷子を見つけた

少しでも早く最寄の準備会インフォメーションまで届けよう。財布やカバン、携帯などは中を開けたりせず、拾ったままの状態が届けるのがルールだ。

●重い箱を抱えて難儀している人がいる

これは特に閉会間際の搬出作業時に遭遇することが多いシーンだ。自分で運搬方法を確保していないのは少々問題はあるかもしれないが、この際大目に見て手を貸してあげよう。特に脇から横の男性陣にオフメだ。自分が台車やカートを使っていて、まだ積載量に余裕がある方法もある。

●待機列などでぐったりしている人がいる

特に冬コミの待機列では座ったまま眠っている人もいるの見極めが難しいが、体調が悪そうな人を見かけたら気軽に『と、一声かけてみよう。ちなみに、待機列以外でも会場内の人なども居るので、気付いたらちょっと様子を見てみもちろん自分でも少しでも気分が悪くなったら絶対に無理しないのが鉄則だ。立ったり歩いたりがついようなら遠慮近くの人に頼んでスタッフを呼んでもらおう。



●近くで人が倒れた

慌てずに周囲の人に『スタッフを呼んでください』と協力自分はその人の側にとどまって、踏まれて蹴られたりしないスペースを確保しながら声をかけよう。意識が混濁している無理に身体を起こさせず、スタッフが来るまで横になっている体調について少しでも聞いておこう（そういった情報は救護のメンバーが到着した時に役に立つ）。

●助けること・助けられること●

事の大小に関わらず、トラブルの時こそ、参加者の意識が試される。

通りがかってそういった状況に出くわした場合も、『自分には関係ない、誰かがやるだろう』と通り過ぎるのではなく、立ち止まって自分に何かできそうなことはないか確認しよう。例えば異性の体調についてはなかなか分かりにくいものだから、倒れた人と同性の人の助けがあれば状態の把握もしやすいかもしれないし、スタッフを呼ぶにしても、倒れた人を保護するにしても、人手は多くあった方がよい。あなたにはほんのちょっとしたことでも、困っている人にはどれだけ心強い助けになるかわからない。

そしてあなた自身が困っている時、誰かが『大丈夫ですか？』と声をかけてくれたのにも何だか恥ずかしくなったりしてつい、反射的に『大丈夫です』と応えてしまった…。そんな経験はないだろうか？

これは不幸なすれ違いだ。声をかけた方も自分なりに勇気を出して手助けを申し出たのだから、それが断られれば『余計な手出しだったのか』と誤ってしまいがちだし、自分自身も結局苦しいままだ。

『困っている誰かに手を差し伸べる』という行為は慣れないとなかなか心理的に葛藤が重いものだが、『助けてもらう』という行為もまた、重いものなのだ。自分自身の状況・状態を正しく把握し、無理を続けるよりも素直に手を貸してもらおう判断を下せる余裕を持とう。

そうして、次には自分が誰かを助けてあげるようにすれば良いのだ。

『大丈夫ですか？』『手を貸しましょうか？』の輪が、コミケットをもっと素敵な場所にしていけるのだ。

なお、本当に大丈夫な時は、ただ『大丈夫です』と答えると相手は無理をしているのではないかと思ってしまうので、『大丈夫です、少しうとうとしていただけです』といったように、自分の状態を簡単に説明する一言を添えると、相手も安心できる。